

仙台厚生病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

通常の診療で得られた過去の診療情報や残存検体等を使用して行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得る代わりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開する事が必要とされています。また、研究結果を学会等で発表する事がありますが、個人を特定する情報は公開されません。

研究課題名	進行・再発非小細胞肺癌におけるPD-1阻害薬と化学療法併用後のドセタキセル/ラムシルマブの効果・予後を評価するための多施設後方視研究 (NEJ051)
当院の診療科・研究責任者	呼吸器内科 主任医長 中村 敦
他の研究機関	埼玉医科大学国際医療センター等他、34施設
本研究の目的	2015年以降日本でもPD-1阻害薬による治療が一般的になり、非小細胞肺癌の治療に欠かせない薬剤となっています。PD-1阻害薬後のドセタキセル/ラムシルマブ療法の効果が高いという研究結果が相次いで報告されており、PD-1阻害薬と血管新生阻害薬との相乗効果が期待されています。さらに治療開発は進歩しており、現在はPD-1阻害薬と化学療法の併用治療（複合免疫療法）を1次治療で行うことが主流になっています。PD-1阻害薬と化学療法の併用療法後の2次治療におけるドセタキセル/ラムシルマブ療法の効果や予後を評価することが、本研究の目的です。
研究期間	倫理委員会承認日～2021年12月
研究の方法（対象となる方）	PD-1阻害薬とプラチナ併用化学療法を含む複合免疫療法を行った方のうち2次治療でドセタキセル/ラムシルマブ療法を受けた方です。2020年8月31日までにドセタキセル/ラムシルマブ療法を開始した患者さんです。
研究の方法（利用する情報）	患者背景（性別、年齢、喫煙歴、診断時ステージ、転移部位、PD-L1発現）、放射線治療歴、1次治療の情報（レジメンの種類、治療効果、増悪日、中止理由）、2次治療（ドセタキセル/ラムシルマブ）に関する情報（治療効果、増悪日、中止理由）、2次治療の有害事象（副作用）、3次治療以降の情報です。
個人情報の取扱い	利用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除致します。 (利用する情報に個人を特定する情報は一切含まれておりません。) 研究結果を学会等で発表する可能性がございますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用致しません。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
お問い合わせ先	研究への利用を拒否する場合等の連絡先 【電話】 022-222-6181 【担当者】 呼吸器内科 主任医長 中村 敦
備考	